

2006年度認定審査サマリーレポート

2006年度の審査の結果、新規に46教育機関の65プログラムが認定されました。2001年度に認定を開始してからの認定プログラムの総数は、144教育機関で346プログラムになりました。この内67校(46%)の教育機関では複数プログラムが認定されています。また、認定プログラムからの修了生の累計は約5.6万人に達しています。認定プログラム数の内訳は、国公立大学55%、私立大学26%、高専(専攻科)19%となっています。認定プログラム数の多い分野は、機械(17%)、工学〔融合複合、新領域〕(15%)、土木(15%)、化学(12%)、電気・電子・情報通信(11%)、情報(8%)、農業工学(5%)などとなっています。

JABEEはその年の認定プログラムの個々の有効期間は公表しておりませんが、過去6年における累積では、約8割のプログラムについて認定基準のいずれかの項目に改善が求められており、中間審査を実施いたしました。中間審査では書類審査、または実地審査を行った結果、いずれも改善が認められて残り期間の認定が認められました。また、今年度は初めて認定継続審査が行われ、3プログラムが認定されました。

JABEEの認定・審査は、16技術分野の分野別審査委員会と、正会員85専門学協会の協力を得て実施されています。2006年度の審査は、371名の審査員によって行われました。また、152名の審査員候補者が、オブザーバとして審査に参加する機会が与えられました。審査員・オブザーバのうち産業界の経験者は128名でした。的確な審査を実施するため、審査員に対して事前研修会を3度開催し、307名が参加しました。

審査チームの審査報告は各分野の分野別審査委員会で調整され、「分野別審査報告書」としてJABEEの認定・審査調整委員会に提出されました。認定・審査調整委員会は、計3日間に及ぶ審議・調整を実施し、分野間を含め全体の調整を行い、「最終審査報告書」を認定委員会に提出しました。認定委員会は、この最終審査報告書に基づき認定の可否と認定期間を決定しました。

昨年同様、2006年度の審査においても、基準1の学習・教育目標の設定、基準3のカリキュラムやシラバスなどの教育方法、基準5の学習・教育目標の達成度評価で改善の必要性が指摘されたプログラムが多数ありました。これらの基準項目は教育の質保証上特

に重要であり、2年後の中間審査までには改善されるものと期待されます。基準1、基準3、基準5の関連性や、基準5(1)、5(3)、5(4)の関連性について多くの議論が行われました。また、基準の多くは、システム（仕組み）の存在と共にそれが機能していることが求められていますので、システムが実際に活用され機能している程度に関する議論が行われました。認定継続審査については、改善ループが機能していることを適正に審査してゆくことが今後の課題となっています。

さらに、審査の国際的適合性を踏まえて、学部教育の水準、修了生の能力などの審査のあり方についても議論が行われました。エンジニアリング・デザインに関しては、2005年度に引き続き、多くのプログラムでデザイン教育の改善が認められましたが、なお一層の努力を期待しています。

認定審査体制については、審査の質の一層の向上が求められることから、今年度の審査経過を踏まえて、審査長・審査員の事前研修を強化すると共に、同一教育機関申請の複数プログラムの同日審査や同時審査（同年度の審査ではあるが審査日の異なる審査）における審査チーム間の意見調整など、審査に関わる調整を一層的確に行うための改善に取り組むことにしました。

一方、高等教育機関における学科等の改組、名称変更などに対応した「変更通知提出のガイドライン」の策定や、高専を対象とした「複数少人数教育プログラムの一斉審査方法の導入」など、高等教育機関における変化やニーズに対応するための整備を行いました。

注：「プログラム」とは、学科、コース、専修等のカリキュラムだけではなく、プログラムの修了資格の評価・判定を含めた入学から卒業までのすべての教育プロセスと教育環境を含むものであり、学科やコースなどの総称です。